

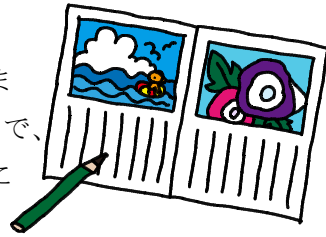
平成 29 年 9 月

高進路だより

兵庫県立伊川谷高等学校 進路指導部

進路指導室案内

夏休み中に本館の耐震工事が終わりました。HR 教室が本館に帰ってきたことで、学校全体が本来の落ち着いた学習環境に戻ってきました。



この間、C 棟 2 階にある進路指導室は、使用できたとはいえ仮設教室からは遠く、特に一年生の諸君にはあまりなじみなかったのではないのでしょうか。

そこで、4 月の『進路だより』で知らせてはいるのですが、再度、進路指導室利用の案内をしておきます。

進路指導室は、就職・進学を問わず、進路を考える上での基本情報を得るための部屋で、企業から送られてきた求人票、大学や短大の過去問題や入試要項など、室内には皆さんの進路研究に必要なたくさんの資料が置いてあります。

基本的に毎日、昼休みと放課後に開いていて、スタッフが常駐しています(会議等のため閉まっていることもあります)。各自の進路について調べたいことや相談したいことがあれば、いつでも尋ねてきて下さい。

なお、進路指導室内や前の廊下では、以下のルールは必ず守るようにして下さい。

①進路指導室内の資料は室内での利用に限ります。資料はすべて持ち出し禁止です。中には学校で1冊しかない本や、先輩が残していったくれた貴重な資料(受験報告書など)がありますので、これは必ず守って下さい。

②進路指導室は、皆さんとの相談場所であり、企業の方や大学の方など来客者と進路担当者が話をする場所でもあります。

前の廊下も含めて、騒がしくするのは慎んで下さい。

③指導室前の廊下に置いてある資料は、自由に持ち帰ることが

できます。問題集、パンフレット、時期がくれば願書や入試要項も置いておきます。必要な人はマナーを守って持ち帰って下さい(散らかさない、封筒から必要な書類だけ抜かない)。

なお、大学別の入試問題(いわゆる赤本)は図書室にあります。貸し出しもできますので、英検や漢検の問題集とともに、せいぜい利用して下さい。

進学への道

『進路だより』6 月号では、「就職への道」と題して、就職に至るまでの流れを案内しました。そこで今号は、(主として 1・2 年生の)進学を考えている人への基礎的な入試の知識をお伝えします。

進学を考えるにあたっては、「どの学校を受験するか」ということと同時に、「どの方式の入試を受験するか」を考える必要があります。入試にはさまざまなバリエーションがあり、学校案内やホームページを見てもなかなか分かりづらいものですので、よく耳にする基本的な「AO 入試」「推薦入試」「一般入試」そして「センター試験」という四つの言葉について説明しましょう。(進学先は大学・短大・専門学校とさまざまですが、以下は便宜上すべて「大学」と表記します)

「AO 入試」

「大学側が求める学生像(アドミッション・ポリシーといいます)と、受験生の人物像(能力・適性・意欲・目的意識など)がマッチしているかを見る」という趣旨でおこなわれる入試のことで、近年は国公立大学でも採用するところが出てきました。

多くの場合、出願条件に成績(評定)基準をもうけていることは少なく、高校からの推薦がなくても受験できるのが一般的です。

選考方法は各大学によってさまざまですが、受験生に課した作文やエントリーシートなどを基にした複数回の面接、小論文、芸術系なら事前に作成した絵や試験当日の実技試験などを基にして選考するケースなどが多いようです。

8 月からの出願(その前に予備審査をするところもある)です

が、合格すれば必ず進学する“専願”が基本になりますので、「どこでもいいから早く決めたい」というような安易な気持ちで受験すると、後々後悔することになります。

「推薦入試」

推薦入試には、①指定校制推薦入試と、②公募制推薦入試があります。

①指定校制推薦入試

私立大学で行われている推薦入試の一種で、大学側が高校を指定して推薦を依頼してきます。出願条件は大学によって異なりますが、出欠や成績などが主な条件で、かなり厳しいものになっています。また、合格すれば必ず進学することを約束する“専願”です。

本校でも毎年多くの大学から「指定校」をいただきますので、例年、9 月初旬にまとめて三年生には提示しています。大学側が毎年いろいろな観点から指定校を見直しますので、年度により大学・学部・学科に変動があります。

ほとんどの場合、指定校制推薦では推薦できる人数が決まっています(大学側が「〇〇学部〇〇学科に〇名」と指定してきます)。ですから、人気のある大学(学部・学科)には希望者が殺到し、校内で指定校推薦枠をめぐる競争になります。

②公募制推薦入試

高校側が推薦し、条件を満たせば、どの高校からでも出願できる入試です。多くの場合、人数制限はありませんので、大学側が要求する条件(出欠・成績など)を満たせば出願できます。

私立大学では基本的に 10 月から 12 月にかけて行われ、国公立大学の場合はセンター試験を課す方式か課さない方式かによって時期が異なります。推薦入試は一般入試に比べて受験科目が少なく(例、入試科目が国語だけとか英語だけとか)、本校でも毎年多くの人が受験します。

ただ、推薦という名称ですが、難しさは一般入試とさほど変わりません。例えば、昨年度の神戸学院大学の公募制推薦入試では、本校からの受験のべ 64 人・合格のべ 22 人、甲南大学では、本校からの受験のべ 7 人・合格のべ 1 人という結果でした。

「一般入試」

基本的には、筆記試験で学力をみる従来からあるオーソドックスな試験なのですが、近年はたいへんバリエーションに富んだ入試になっています。

受験チャンス拡大(大学にとっては受験者数拡大)のため、ほとんどの大学では複数回の入試を実施しています。大学によって呼称はいろいろですが、前期入試・後期入試(国公立大学)や、1月入試・2月入試・3月入試(私立大学)という呼び方が多いようです。時期によって募集定員や入試科目も異なることが多く、自分が得意とする科目の受験日を選ぶなど、受験の「作戦」も必要になります。

その他、本学入試と地方入試、センター試験利用などを実施している大学も多くありますので、入学したい大学の入試をうまく組み合わせると、受験チャンスが増加します。

「センター試験」

大学入試センターが主催する全国共通試験のことです。国公立大学に一般入試を受けて進学するためには、必ず受験しなくてはなりません(推薦入試でも必要な場合があります)。国公立大学の一般入試受験では、このセンター試験の成績と、その後に行われる各大学の個別試験の結果を総合して判定されます。

さらに最近では、国公立のみならず私立大学でもセンター試験利用や併用の入試方法を取り入れている学校が多くなっています。

センター試験自体は1月中旬に実施されていますが、出願は前年の秋にしておかなければなりません。

【二次出願】

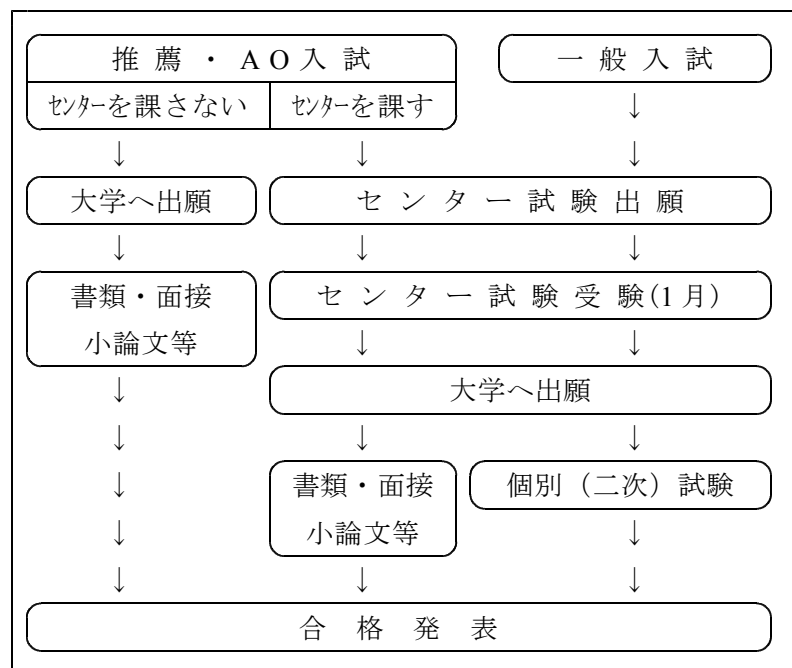
センター試験が終了した後、各大学に願書を出すことをいいます。センター試験後に行う「自己採点」結果と、予備校などが発表するボーダー予想などのデータを勘案し、実質的に1週間程度で出願大学を決めなければなりません。

【二次試験】

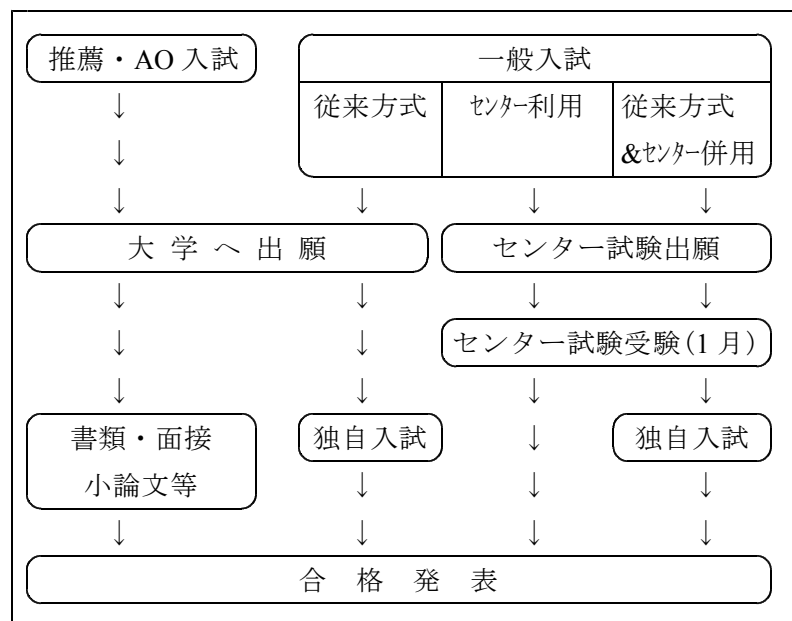
国公立大学の前期・中期・後期におこなわれる各個別試験をさします。各大学や学部(学科)によって、必要となる科目や科

目のウエイト(センター試験と二次試験の比率・重み)が異なります。

国公立大学の入試の流れ



私立大学の入試の流れ



三年生諸君へ

センター試験の時間割が発表されています。今後もセンター試験関係だけでなく、私学の独自の試験も含めて入試情報には各自で気をつけておいて下さい。

試験日	試験教科・科目	試験時間
第1日目 1月13日 (土)	地理 「世界史A」「世界史B」「日本史A」	2科目選択
	歴史 「日本史B」「地理A」「地理B」	9:30～11:40
	公民 「現代社会」「倫理」「政治・経済」	1科目選択
	『倫理、政治・経済』	10:40～11:40
	国語 『国語』	13:00～14:20
第2日目 1月14日 (日)	外国語 『英語』『ドイツ語』『フランス語』	【筆記】15:10～16:30
	『中国語』『韓国語』	【リスニング】『英語』のみ 17:10～18:10
	理科 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」	9:30～10:30
	① 「地学基礎」	
	数学 「数学I」「数学I・数学A」	11:20～12:20
	① 「数学II」「数学II・数学B」	13:40～14:40
理科 ②	『簿記・会計』『情報関係基礎』	
	「物理」「化学」「生物」「地学」	2科目選択 15:30～17:40
		1科目選択 16:40～17:40